

No. 40

# イコロの森

建築士会  
女性委員会

## 平成20年度 女性建築士の集い 「イコロの森」見学会

苫小牧支部 北村 裕子

10月4日に全道大会が苫小牧で行われました。

女性委員会では翌日の5日、23名の女性委員が集まり、苫小牧市植苗に今年4月にオープンした「イコロの森」の施設を見学しました。この施設は苫小牧の樽前山のふもとの原野の一角に、「森林の保全と再生を図る資源循環型の環境作り」を目指して創られたものです。

集いでは、この施設全体の企画・設計と運営をされている鈴木敏司様（アトリエ a k u 代表）に「イコロの森」事業全体像のライド映写を交えて講演を頂きました。ゴルフ場に予定されていた広大な森の自然環境を生かした施設作りについて熱心に語っていただきました。

「イコロの森」は原生のミズナラやハルニレ・ミヤマザクラなどの多様な広葉樹が分布した平坦な100haの原生林です。健康な森とするために間伐した広葉樹を炭焼きにして、炭製品の生産・販売もしていました。この日は幸運にも昔ながらの炭焼釜を作成中で完成の最後の工程である火入れが行われていました。



この森にはシンプルなデザインで統一されたレストランやショップ・管理などが配置され管理棟には2004年の新月の日に伐採されたカラマツが使われていました。また木造モデル温室では花卉や苗の栽培が行われ、数多くの品種の苗の販売がされていました。

講演会の後には、道産材を使ったパネル工法で建築されたレストランでミニコース料理を戴き、午後からは鈴木様の案内で11のテーマエリアからなるガーデンを見学しました。ローズガーデン・ホワイトガーデン・ナチュラルガーデンを案内していただきましたが、花の時期は終わってしまっていたのでイメージだけ膨らませてきました。次回来るときは6月の花の時期にしたいと思いました。自然との共生を図った施設作りに感銘し、貴重な経験することが出来た女性の集いとなりました。



## 職人体験と歴史的建造物見学会

道央Aブロック活動報告 工藤美智子

9月21日に、小樽の『旧寿原邸』を会場に、見学会と職人体験学習会を行いました。

体験学習は、北海道職人義塾大蔵校から金箔貼りとカラフルキャンドルの講師をお招きして箸の金箔貼りと押し花を使ったキャンドル作りを教えてくださいました。内容は小学生の体験学習程度ですが久しぶりに教わる立場での手作業で楽しい時間を過ごしそれぞれ満足気に(?)自分の作品を持ち帰りました。



体験会場となった旧寿原邸は、小樽最初の衆議院議員その後貴族院議員を歴任し、小豆将軍の異名を取った雑穀商高橋直治氏が大正元年に建設し、その後持ち主が寿原家に移り、昭和61年小樽市に寄贈され、平成3年には小樽市指定歴史的建造物に指定された建物です。

傾斜地を利用した眺望のすばらしい邸宅です。体験には、最上階の二間続きの和室を使わせて頂きました。庭園も緩傾斜地を3段に地割りし、それぞれ特徴のある立派な作りです。内外共に見応えのある



建物でした。暮らしぶりに合わせた改修なども随所に見られ、長い時代を生きてきた建物であることを実感しました。

## 住宅展示場見学会

道北ブロック活動報告 米本 一恵

『光熱費ゼロの家』聞いた事ありませんか。テレビでも一度は目にされているのではないのでしょうか。「本当かしら？」という方も多いに違いありません。というセキスイハイムさんの岩見沢工場内にあります住宅展示場を見学させていただきました。

前日より雪が舞い始め、当日旭川は10センチ以上積もったのでしょうか。高速も圧雪状態。お天気の悪い中出発しましたが岩見沢に近づくにつれ雪もみぞれに。時間ぎりぎりに到着して早速モデルハウスの中に。心地よい暖かさが外から来た者を迎い入れてくれます。あとから聴けば暖房はほとんど入っていないとの事。これも「光熱費ゼロ」の理由のひとつ。Q値を1以下に抑えることにより高水準の断熱性能。二つ目は太陽光発電システムによる自然エネルギー確保と売電。三つ目は省エネ設備。この三つの理由で「光熱費ゼロ」への実現となるわけです。ただここまでの道のりは研究所の職員の方たちの試行錯誤により実現したものとの説明を受けながら、職員の方の想いと企業のこだわりが感じられました。ここまで来ると「光熱費ゼロの家」を理解することが出来ます。

省エネルギーが光熱費を減らすことに結びつくことはわかりますが、それと共に設備にお金が掛かることも現実です。ただそういう意識を持つ人が多くなることが光熱費を減らすだけでなく快適に暮らすという領域にも広がりを持たせるのではないのでしょうか。良いお話を聞かせていただきました。

